
稲万里さんちの大家族

紀織繭璃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

稲万里さんちの大家族

【Nコード】

N4486I

【作者名】

紀織繭璃

【あらすじ】

遼の新しい職場。それは、大家族・稲万里家の家政婦だった…！？
3男12女の大家族は、毎日が戦場。食事の時だって、登下校だって、遊ぶ時だって…。遼はいつもクツクタ。
そんなユカイな稲万里さんちには、ある大きな秘密があり…？

稲万里さんちの新入り君

「……。」

僕は、馬鹿デカイ門を目の前にして、絶句していた。

…何なんだ、ここは。

達筆な字で書かれた、『稲^{いなまり}万里』という名の表札を横目で見て、
この家で間違えない、ということを変更して確認する。…こんな
夢であつて欲しい。全力で。こんな家で…生活できるかああッ！
てかそれ以前に、こんな山奥に家があるのがこしかないから、間
違えてたら僕野宿だし。

「とりあえず、インターホン押すかなよな…はあ…」

表札の隣にある、黒光りしているインターホンを押そうと僕は手を
伸ばす。…しかし。

「うおおおおおおお…押すぞ…押すんだぞ…押す…」

いくら決意しても、自分に言い聞かせても、インターホンを押すこ
とが出来なかった。手の震えが止まらない。こんな大きな家、見た
ことが無かったからかもしれないし、こんな家でやっていけるのか、
という心配があつたからかもしれないし、何故だかは分からない。

でも、ここで理由を探索しても前には進めない。理由はどうであ
れ、僕がビビッているという事実には変わりないのだから。立ち上
がれ、立ち上がるんだ、僕！！！！

「うおおおおおおお…押すぞ…押すんだぞ…押す…」

咆哮してインターホンを押そうと指に力を入れた刹那。

『ぎぎぎぎぎぎぎぎぎいいいいいいいいいい…』

と重い音が僕の隣で響いた。

「へ？」

間の抜けた声を漏らし、音のする方向を見た僕。そこで僕が見たの
は…。

「……お前…誰？」

「見かけない顔じゃの」

「新入りさんですかあ？」

重そうな門が30センチ位開き、そこからよっきりと飛び出した、
顔×3。

「ひゃあああああああッ!？」

「ほらほら、驚かせてるぞ」

「撫子のせいですよ」

「私は何もしておらん!！」

そういいながら声の主達が門から出てくる。…小学校4年生くらいだろうか。すごく可愛い。

「あ、こら、お前達！」

「あらあら、張り切ってますわね」

「来てるのか？来てるのか？」

「…ふわあああ」

「もう待ちくたびれたしい」

「あわわわわ…ごめんなさい…」

「なんで謝るのかなあ？」

「だあ!！」

「うわ!引つ張るなあ!裾引つ張るなあ!」

「五月蠅いですよ、菖蒲」

それに続いてどんどん出てくる個性豊かな皆さん。

呆氣にとられてそこに立ち尽くしていると、不意に門から出てくる人が途切れた。どうやら、これでこの家に住む人は全員らしい。

…って多ッ。

「えーと？中江遼くん…ですわよね？」

「え？あ、はい!中江遼ですッ!今日からここで働くことになりましたッ!よろしくお願いしますッ!」

いきなり名前を呼ばれて、その反動で自己紹介した僕。…そう。ここが、僕の新しい職場。

「遼くんか、へえ」

そういつて微笑んだこの家の住人は何か裏にありそうな笑みを一瞬だけ浮かべて、元の人当たりがよさそうな笑いにかえて言った。

「ようこそ、いなまり稲万里家へ!!」

これが僕の非・日常への入り口だなんて、そのときは考えもしなかったんだな…

稲万里さんちの新入り君（後書き）

なんか、私コメディーしかかけないんじゃないの？って思いつつ、書きました。

ハチャメチャな稲万里さんち、お楽しみください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4486i/>

稲万里さんちの大家族

2010年10月28日04時34分発行